

明治八年
大阪
錦画
新聞
第廿三号

尾張國中根村伴野新藏、或る時兄の新左門が
火傷をして膝を伸し、痛で難波ある病院へ入り
兄弟丹漆を塗り看病おいて、傷のあをとり、肉
くすりて、足らぬ所なり、此を置き、又膝の

のびざる事あると、医者云ふ新造の
いふ事を全快とて、手は是ふ
人の肉をとりて、其肉を足せし
癒るあり、これを私の肉を切り

兄弟を給ふれと義と義で合ふと、鉄の刃を切つて、
をとりて親を、火傷の治療、弟の肉を兄へ

つけ、追く双方快き、其弟の懇切を懸念

や、又感せられ御褒賞五円頂き、ハ

明治八年二月の讀賣四十一号、出ル

文花堂誌



新
保
知
堂